



LOCKSTATE

CASE STUDY



LockState

Ayla IoTプラットフォームでインターネット接続型スマートロック市場の成功の扉を開いたLockState社

背景

米国コロラド州のLockState社は、オフィス及び住宅施設向けのインターネット接続型入退出管理システムのリーディングカンパニーです。2004年創立のLockState社は、高性能なキーレスエントリー機能付きドアロックと金庫で市場に参入しました。2011年には初のWi-Fi搭載キーパッド式スマートロックをRemoteLockというブランドで発表。このWi-Fi搭載スマートロックと周辺機器によって、施設所有者や管理者は世界のどこからでも施設を監視、管理できます。

課題

従来のドアロックから“つながる”スマートロックへの移行

ドアロックを長年製造および輸入してきたLockState社は、2011年という早い段階でモノのインターネット(IoT)の可能性に注目、しかしながら、信頼性、安全性、性能に優れたインターネット接続型製品の開発には解決すべき多くの困難が予想されました。

LockState社のCEO兼創業者のノーラン・モンドロー(Nolan Mondrow)氏は次のように振り返ります。「私たちはIoTに関わる技術の専門家ではありません。スマートロックを独力で実現するには多くの困難が伴い、リスクも大きいことがわかりました。そこでこの大切な仕事を任せられそうなIoTの専門家を探しました」

10社あまりのIoT関連企業を検討した結果、LockState社はAyla IoTプラットフォームをベースとして初の“つながる”スマートロック、RemoteLockを開発することに決めました。

Aylaのソリューション

LockState社は、Aylaにはスマートロック市場への進出に欠かせないIoTの専門知識があると考えました。モンドロー氏は次のように述べています。「Aylaは売り込みや安請け合いをするのではなく、的を射た質問をしてくれました。どうしたら当社の目的を実現できるか、真剣に考えてくれたのです。また、Aylaには長年に渡り強固な関係を築いた、チップメーカーや関連分野のパートナーを多く抱えていました」

会社プロフィール

- ・ オフィス及び住宅施設向けのインターネット接続型入退出管理システムのリーディングカンパニー
- ・ 2004年、高性能キーレスエントリー機能付きドアロックと金庫で市場参入
- ・ 2006年、貸別荘施設市場向けに、キーレスエントリーソリューションであるResortLockを発売
- ・ 2011年、初のWi-Fi搭載キーパッド式スマートロック、RemoteLockを発売
- ・ 2013年、インターネット接続型入退出管理システム、RemoteLock Access Control System (ACS)を発売

CASE STUDY



Ayla IoTプラットフォームを使うことで、LockState社は以下を実現しました。

- スマートロック製品に要求される強固なセキュリティをエンドツーエンドで実現。
- 施設所有者、および貸別荘利用者などのユーザー向けに、スマートロック用のユーザーインターフェイスを開発し、ユーザーのモバイルデバイスからドアロックを簡単に操作できる環境を提供。
- 異なるクラウド環境間で、特定のドアロックを解錠する一時コードの発行を可能にする実装を実現。Airbnb社はこの機能を評価し、数少ないテクノロジーパートナーの最初の一社としてLockStateを選定した。Airbnb社はLockState社とAylaのAPIを利用することで、施設所有者が同社のネットワークから利用者に滞在期間中のみ有効なドアロックの一時コードを提供できるようになった。
- Aylaでも利用可能でスマートホーム製品に使われることの多いZigBeeやBluetoothなどインターネットゲートウェイが必要となる無線技術でなく、Wi-Fiを活用。Wi-Fiを使用することで、スマートロック毎のゲートウェイ設置が必要なくなり、ドアごとに異なるロック設置が必要な集合住宅、オフィス施設において評価されるシステムデザインを採用。

選ばれる理由

LockState社がAyla IoTプラットフォームを選んだ理由とは、

- 万全のセキュリティ。「Aylaのおかげで、インターネット接続型スマートロックがハッキングをされる心配から解放されて、安心がもたらされました」（LockState社CEO兼創業者モンドロー氏）
- コスト削減。「Aylaとでなければ、IoTシステム構築運用に必要とされる広範な技術を自社でカバーするために、巨額を投じて技術者を採用したり、新たに養成したりする必要がありました。自社で関連技術の進歩を追い続ける必要もあります。セキュリティ関連の開発と運用保守だけでも、数百万ドルかかったはず。Aylaのプラットフォームを採用することで削減できた予算は、ユーザーインターフェイスの改良や新しいユーザーアプリの開発に投じています」（モンドロー氏）
- 常に最新。「Aylaのプラットフォームが、スマートロックとクラウド、およびクラウドと当社のユーザーインターフェイスが作動するサーバー間のセキュリティを確保してくれます。暗号化、認証などの更新はすべてAylaプラットフォームで行われます。当社製品のデータ送信はAylaによって保護されているため、新たなセキュリティ脅威への対応というプレッシャーを感じずに済みます」（モンドロー氏）
- 得意分野に注力。「コネクテッド製品の市場投入にあたっての課題は、ほぼAylaが解決してくれます。必要な機能を提供してくれるので、当社は創造性を発揮して得意分野に注力できます」（モンドロー氏）

